

第6回糸満市総合教育会議 議事録

日 時 平成30年1月24日(木) 午後5時30分～午後6時30分

開催場所 糸満市役所5-d会議室

出席委員

上原昭 市長、久保田暁 教育委員、玉城利恵 教育委員、吉川朝昭 教育委員、神村逸子 教育委員、
安谷屋幸勇 教育長

事務局及び関係部局

(市長部局) 上原仁 企画開発部長、国吉丘 行政経営課長、伊敷茂雄 行政経営係長
(教育委員会) 湖城清 総務部長、金城毅 指導部長、福元信美 総務課長、新垣研 総務係長

協議事項

平成30年度教育関係予算に係る意見書

[市長]

それでは、定刻になりましたので、これより、第6回糸満市総合教育会議を開催いたします。
今回は、協議が1件あります。
では、事務局から協議の内容について、説明してください。

[事務局]

はい、今回の協議内容は「平成30年度教育関係予算に係る意見書」についてです。
資料につきましては、お手元の意見書となります。それでは説明の方を教育委員会からお願いします。

[教委総務課長]

教育委員会総務課の福元です。ただいま、教育長から市長の方に意見書の提出がありました。その内容
につきましては、各部ごとにまとめています。それでは総務部長と指導部長が説明いたしますので、よ
ろしく願いいたします。

[教委総務部長]

それでは総務部から行います。全部で6点ございます。

まず1点目、学校整備費事業において、幼小中学校普通教室への空調機整備については、整備方針を策
定し、5年以内での整備ができるようご高配をお願いします。また、空調設備をした後には、使用する時
間帯や温度設定を適切に設定するとともに、空調設備取扱要領を策定し、節電に取り組み、ランニングコ
ストの削減を図ってまいります。

2点目、兼城こども園園舎移転改築事業については、現座波保育所敷地への保育室を増築する計画です。
平成31年度工事に着手いたします。

3点目、米須小学校校舎改築事業は、平成32年度に供用開始できるよう事業を推進してまいります。
現在、実施設計書を作成中で、平成31年度に工事着手を計画しています。

4点目、青少年等社会教育振興事業については、平成30年度は友好都市である北海道網走市に青少年
派遣を予定しており、中学生10名、高校生2名、引率2名の計14人を計画しています。

5点目、文化財保護事業については、南山城跡の国指定をはじめ市内文化財保護と開発事業の円滑化を
図るため、文化財担当嘱託員の配置をご高配いただきますようお願いいたします。

6点目、中央図書館管理費については、築20年以上経過しており、老朽化した空調機の更新に係る予算の確保についてご高配をお願いいたします。

総務部からは以上です。

[指導部長]

続きまして、指導部からです。5点ございます。

1点目、教育振興事業については、障害児支援ヘルパー字義用は市内幼稚園及び小中学校にヘルパーを派遣し、対象幼児児童生徒の学習や生活の自立に向けて着実に前進することができているところです。また、確かな学力を育むサポート事業では、各学校に学習支援員を配置し、学校に遅れがある子、登降しづりで別教室学習をする子などの支援を実施していますが、どの事業も対象となる幼児児童生徒が増加傾向にあります。引き続き特段のご配慮をお願いします。

2点目、平成30年4月より糸満南幼稚園、西崎幼稚園、兼城幼稚園、潮平幼稚園については、市立の幼保連携型認定こども園へ移行となりますが、質の高い幼児教育に向け、取り組んでまいります。幼児教育に関わる人材を育成し、その質を高めるために市内保育所、幼稚園、認定こども園の職員に対する研修の強化するために特段のご高配をお願いします。また保幼小連携事業を推進し、中学校までの連携が取れるように取り組んでまいります。

3点目、遊び、非行傾向の不登校等で、学校外での指導や相談を必要とする児童生徒に対し、日中の居場所を確保し、学校や社会への適応の促進及び将来の社会的自立・自律に向けた支援等を行うことが必要となってくることから、今後指導主事の増員及び青少年センターに自立支援教室を設置できるよう特段の御配慮をお願いします。この件については、平成31年度以降に調整していきたいと思っております。

4点目、保健体育振興費について、平成31年度全国高等学校総合体育大会ウエイトリフティング競技糸満市開催に向け、実行委員会の立ち上げ、社会体育課内に高校総体推進係を設置することから、関連予算の確保をお願いいたします。また、ふるさと応援基金を活用した、厚木市との青少年スポーツ交流事業及びてくてくウォーキング大会開催についてご高配いただきますようお願いいたします。

5点目、学校給食センターの管理費において、施設整備に係る工事費及びその他備品の修繕に係る予算の確保をお願いします。また、調理等の委託費用の見直しについては、人件費の高騰等もあり、見直しが必要となっております。今後検討が必要となります。

その他の項目についても、私の方で読み上げます。

一括交付金の活用について、教育委員会で現在一括交付金を活用した継続事業が8事業ありますが、うち7事業については、全部または一部を従前は市の一般財源等で、補助事業、交付税措置を含めて行われていた経緯があります。平成30年度の一括交付金の減額により当該諸事業を縮小する事がないよう、特段の御高配をよろしくお願い申し上げます。

各種検討委員会について、小中一貫校の導入や、高嶺小学校の移転改築、学校給食センター改築については検討委員会を立ち上げ、今後市長部局との調整を行いながら協議を行います。

以上です。

[市長]

それでは、説明が終わりましたので、ご意見がありましたらお願いいたします。

[久保田委員]

どの事業も必要で、今後も続けていく充実させる必要がある。よろしくお願ひしたい。

特に青少年センターは当初、自立支援事業があった。そこに指導員がいて、子どもたちの問題行動を指導した経緯がありました。今は無いようだが、必要性もあるので、また事業として復活してほしいので職員を配置してほしい。そのあたりはご配慮をお願いしたい。

それと一括交付金事業については、沖縄県独自の事業として行っていますが、学校教育関係で8事業を

実施しています。元々は一般財源で行っていて、その後一括交付金ができ、それが活用できる事業は実施してきたわけですが、一括交付金が減額されてきている中で、これらの事業がなくなってしまうのは問題です。一括交付金が利用できなくても、事業については引き続き続けてほしいです。

[市長]

今日は各種事業について事業単位で細かく予算を認める、認められないということについては、内容を精査していませんので、差し控えたいと思います。

まず、一括交付金についてですが、前回まで7億余りあったものが1億近く減額されています。市の6億余りの事業費枠の中で、特に教育関係、福祉関係、商工観光関係が主な内容であり、どれも大事な事業です。

現在の市場に暮らし体感施設の建設を予定しており、その実施設計が終えています。これはどうしても進めないといけません。これで4億ほどかかり、平成30年度は大変厳しい状況です。

それでは平成31年度は良くなるのかと申しますと、平和文化観光振興センターが加わってきます。この事業で毎年6億円を占めるため、ほかの事業がほぼできなくなる状況であり、また、平成31年度以降の一括交付金はどうなるのか、本当にわからない状況にあります。増額があるとは思えないので本当にどうするのかと。

実は今日、総合事務局の理財局の担当者が見えていました。糸満市の財政状況を分析してみたそうです。結果の説明を受けたのですが、糸満市は扶助費がとても高いとのこと。生活保護、それから国民健康保険、特に沖縄県における一人あたり医療費は糸満市が一番高いということでした。大変ビックリしました。私なりに考えてみましたが、病院が6つあるもの原因かもしれません。いずれにせよ一括交付金を当てにした事業は、ここ4、5年は我慢した方が良いのかなと思っています。

しかし、一般財源で可能なのかというと、扶助費というのは経常経費ですので、水準を落とさない限りは減額することができません。平成30年度の現時点では、民生費の割合が55%、経常収収支比率が93%で、糸満市は11市の中で最も高い。これは、通常の事業しかできないということなのです。そのような状況であることを教育委員の皆様には知ってほしい。もちろん最善を尽くしていきます。教育委員会にも収入の確保を含めて皆さんにもご尽力していただきたい。

教育委員会とはクーラー設置は約束しており、財政当局調整しながら5年かけて進めていくつもりであります。私としては、一括交付金事業が無くなったなら事業廃止するのではなく、別の歳入を探すなども教育委員会で検討していただきながら、続けていく方向を検討したい。

意見書のその他の項目については、各種検討委員会については、やや遅れていると思うものもある。小中一貫校の導入についても、市長就任時からお願いしています。高嶺小移転改築、給食センターの改築の委員会を立ち上げは早めによりしくお願いします。改築については、決定後は事業費がかかりますが、その前に委員会での事業内容の検討、事業費の算出、各事業の工程などを知るために早めの設置をよろしくお願いします。

[久保田委員]

暮らし体感施設の費用はどのようなもので行うのですか。他の補助金とかはないのですか。

[市長]

一括交付金となります。ほかはありません。また当初の見込みよりも事業費がかかっています。

[神村委員]

一括交付金の活用は、例えば積み立てなどができないのですか。

[市長]

ありません。

[神村委員]

くらし体感施設や観光振興センターは4億とか、6億とかの事業ですが、これだけの費用が掛かるとい
うのがわかるのにそれでも無理なのでしょうか。

[市長]

これは国からの補助金なので、事業で積み立てはできません。

[神村委員]

もう一つお聞きしたいのが、糸満市の場合には財源確保が難しいとお話です。入ってくるお金がない
ということで財源を増やす事業とかあるのでしょうか。

[市長]

中長期的に歳入を増やそうということで、糸満市の道路が良くなったおかげで、最近、企業から土地は
ありますかと問い合わせがきています。ところが西崎の工業団地はすべて完売し、民間での売買しかあり
ません。そういうわけでお断りをしている状況なのですが、そういうわけにもいきませんので、真栄里地
区で土地を確保して、企業団地を新しく作りたいと考えています。それは次年度から予定していて、土地
開発公社にお願いするつもりです。しかしながら時間がかかります。

もちろん企業誘致は西崎でも少しづつやっていく。それとホテルですね。名城に今年の7月から建設が
始まるということを知っています。ただし2年半ぐらいかかります。大変大きなホテルですので、期待し
ています。そのほかにも2、3ホテルの話は来ています。このような話は3年後、4年後の話です。その
時には税収増が期待できます。そういう意味での努力は引き続き行います。また、観光関係も好調ですの
で、観光客の誘致、民泊の推進など努力していく。こういったことは一気に明日から歳入が増える話でな
いことはご理解いただきたい。

[久保田委員]

前に都農町のみなさんが来た時に話をしました。ふるさと納税についてでしたが、糸満市はどれぐら
いなのかということだったので6、000万ぐらいたと。都農町は7億ぐらいいですか。

[市長]

いや70億です。

[久保田委員]

ビックリですね。そのような差は、何をどのようにすればつくものなののでしょうか。

[教育長]

特産品ですかね。

[市長]

都農町はウナギなんですね。養殖ウナギです。

[久保田委員]

すごいですね。

[市長]

そういった意味では加工品ですね。生モノでは、マンゴーは人気がありますが、糸満市だけではありませんので。水産物、農産物の加工品などに力を入れたいと思います。

漁連の市場が糸満市に移転しますが、移転先は県有地ですので、県と相談しながら加工品を作りたいという業者がおりますので、確保していきたいと考えています。

[久保田委員]

市長もいろいろ大変だとは思いますが、教育も重要であり、どうにか引き続き検討してほしいと思います。

[市長]

ほかにご意見等がございますでしょうか。特にご意見が無いようですので、これで協議を終えたいと思います。

それでは、以上をもちまして、糸満市総合教育会議を閉会させていただきます。お疲れさまでした。